

入選

私の大切な言葉

栃木県 吹上小学校 4年 大田和 玲来

みなさんには、大切な言葉がありますか。私には、かんたんな言葉だけれど、とてもいいなあと思う言葉があります。それは、「どうしたの」という言葉です。

ある日、私の友だちがだれかとけんかをしてしまったらしく、なやんでいました。そこで私は、「どうしたの。」

と声をかけました。するとその子が、

「友だちに注意をしたら、けんかになってしまったんだ。」

と話し始めました。けんかをしたかったわけではないのに、きつく友だちに言ってしまったことなど、たくさん話をしてくれました。私にできることはなかったけれど、ずっと話を聞いていました。すると、話をしたあとに、

「仲直りできるように話しかけてみるね。なんか聞いてもらってすっきりした。ありがとう。」

と言ってくれました。私は話を聞いていただけだけれど、友達が仲直りできそうだったので、とてもうれしくなりました。

自分から「どうしたの」と声をかけることで、こんなにうれしくなることもあるのだなと思いました。やっぱり、ゆう気を出して話しかけてみてよかったなあ、と思いました。

やっぱりと思ったのは、話しかける前に、こんなふうに思っていたからです。

(なんだかなやんでいるようだけど、私には関係のないことだしな、きっとなんとかなるよ。)

そのとき、友達がなやんでいることには気づいていたけれど、なんとなく話しかけることをためらってしまいました。でも、どうしても気になって、「どうしたの」と話しかけたのです。

「どうしたの」と声をかけるだけですが、それは、かんたんそうに思えても、むずかしいことなのかもしれません。親切でやっても、「おせっかいだな」と思われてしまうかもしれないし、むしされてしまったらはずかしいなど、いろいろな気持ちがじゃまをしてくるからです。バスや電車の中で、思っている、なかなか席をゆずってあげられないのもそうです。

私は、この「どうしたの」の言葉を、耳が聞こえないおばあちゃんにもよく使います。耳が聞こえないので、話しかけるのではなく、手紙に「どうしたの」と書いて、かたをぽんぽんとたたいてわたすのです。すると、こまっていることや、今必要なことを教えてくれます。おばあちゃんは、私に気持ちをつたえることができ、とてもうれしそうです。

「どうしたの」という短い言葉は、少しゆう気が必要なときもありますが、みんなの気持ちが通じ合うやさしい言葉です。私はこの言葉を、これからも使っていきたいです。みんなにもぜひ使ってほしいです。